

平成18年度病害虫発生予報第8号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年11月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、2週目と3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

要素別確率 単位（%）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
トマト	黄化葉巻病 コナジラミ類 ハモグリバエ類	並 やや多 やや少	並 やや多 やや少
きゅうり	うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや多 並 やや少 多	やや多 並 やや少 多
キャベツ	コナガ アブラムシ類	並 やや多	並 やや多
にんじん	黒葉枯病 うどんこ病	並 やや少	並 やや少
いちご	炭疽病 うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類（防除情報第10号） ハスモンヨトウ	多 やや少 並 やや多 やや少	多 やや少 並 多 やや少
かんきつ	ミカンハダニ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(前年は発生を認めない。H16年は発病株率0.0%、発生圃場率8.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア タバココナジラミ類が本病を媒介するので、これらコナジラミ類の侵入防止に努める。

イ ハウス内の発病株はハウス外に持ち出し、適正処分し、ハウス内での蔓延を防止

する。

ウ 訪花昆虫（ハチ）を使用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、ハチに影響の少ない薬剤を使用する。

2. コナジラミ類(外コナジラミ類、オシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.5%(1.2%)、発生圃場率は41.7%(20.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミ類はトマト黄化葉巻病を媒介するので黄色粘着板等で発生状況を把握し防除に努める。

ウ 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害葉率は4.2%(7.4%)、発生圃場率は25.0%(71.8%)であった。

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は6.3%(3.9%)、発生圃場率は66.7%(40.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(5.8%)であった。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生は認められなかった(寄生葉率0.1%、発生圃場率5.6%)。

4. コナジラミ類(外コナジラミ類、オシツコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は14.2%(1.6%)、発生圃場率は75.0%(31.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

キャベツ

キャベツの()は平成11年～17年の7か年の平均値

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は2.7%(2.6%)、発生圃場率は25.0%(25.0%)であった。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(0.7%)、発生圃場率は33.3%(15.1%)であった。

にんじん

にんじんの()内は平成11年～17年の7か年の平均値

1. 黒葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率1.2%、発生圃場率8.9%)。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率2.0%、発生圃場率11.0%)。

いちご

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は22.2%(3.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病および枯死した株は感染源となるので速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

イ 本圃で使用できる薬剤は少ない。防除の際は使用基準を遵守する。

ウ 多発圃場では、次年度の定植前に土壌消毒を必ず行う。その際は、植物体残さ(特に、葉柄、クラウン等)中で炭疽病菌が長期間残存するので、これらを除去する。

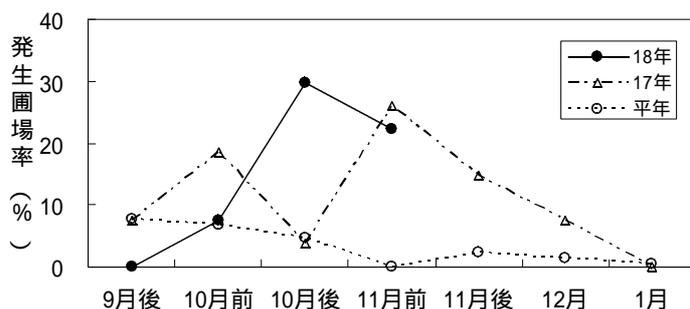


図 いちご炭疽病(G.cingulata)発生圃場率の推移

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率0.4%、発生圃場率7.2%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.2%(1.7%)、発生圃場率は22.2%(17.8%)であった。

4. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

平成18年11月15日付、病虫害発生予察防除情報第10号による。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.6%(8.0%)、発生圃場率は48.1%(62.4%)であった。

かんきつ

ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は2.4%(10.4%)、発生圃場率は23.1%(54.5%)であった。

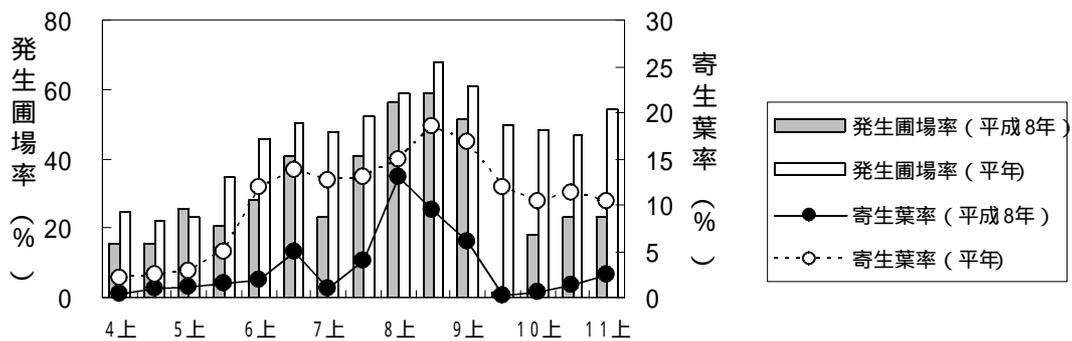


図 巡回調査におけるミカンハダニの発生状況

